



【学校教育目標】

Treasure Island

笑顔いっぱい

～気づき、考え、行動する 高島っ子を育てる～

長崎市立高島小中学校 校長 宇土 衛



第78回 卒業証書授与式

3月18日(火)、第78回卒業証書授与式を無事挙行することができました。

暖かな春の陽射しに照らされて、さんが立派に巣立っていきました。

先週行った全体練習でも、本番さながらの緊張感ある時間を経験しましたが、当日もさんはもとより、在校生全員が素晴らしい姿を見せ、厳かな中にもとても温かみのある卒業証書授与式をつくりあげることができました。

校長式辞では、次のようなことを伝えました。

卒業式の練習開始にあたり、私からこの卒業式を、これまで育てていただいた保護者の皆さんへの感謝の気持ちを伝える式にしようと話しました。感謝の気持ちを伝える方法として、よく手紙が使われますが、保護者の方から手紙をもらったことはありますか？ 実は、私も含めここにいる全員が、親から手紙をもらっています。そして、その手紙を何度も読み返したり、書き写したりしています。人に読んでもらうことも多いです。その手紙とは何だか分かりますか。その手紙とは、一人ひとりに贈られた名前です。その名前こそ、こんな人に育ってほしい、こういう人生を送ってほしいという強い願いがこもった親からの初めての手紙なのです。

私も3人の子供の親ですから、保護者の皆さんがどんな気持ちでその手紙を送ったかよく分かります。そんな気持ちを、コピーライターの後藤彰久(ごとう あきひさ)さんが詩にしておっしゃったので紹介します。

名前は、親が子供に贈る初めての手紙なのかもしれない。

わずか一文字か二文字。だからこそ、親は悩む。こんな子に育ってほしい。

いや、元気であれば、それでいい。

とにかく、生まれてきてくれて、ありがとう。あふれる思いを胸に、紙に向かう。

お腹の子に語りかけながら、ペンを動かす。

何度も書いて。何度も考えて。また、書く。

それは、親が子供に贈る「一通の手紙」なのだと思うのです。

子供たちは、人生という時間をかけて、読んでくれるはずです。

その手紙を書いた日の、両親の思いを。

一生のうちで、自分の名前ほど目にする文字は、他にない。

そう、こんな繰り返し読まれる手紙は、他にないのです。

皆さんはこれまでに「名前」という手紙に込められた保護者の皆さんの思いを感じてきましたか？ 自分の名前に込められた思いを知っていますか？ 今日、家に帰ってからしっかりと尋ねてみてください。

素晴らしい思いがこもったその名前に誇りと自信をもって、中学校生活の第一歩を踏み出してくれることを心から願っています。

さんの中学校生活に幸多からんことを、願っています。

